

72 年前の ex J4EA の交友から先達の活躍をしのぶ [第 3 回]

オールドタイマーが遺した一冊のアルバム

by Editor Shinzaburo Kawai, JA1FUY

いつのころか「モービルハム」編集部へ送られてきた小包の存在をしばらくの間、思い出すこともなく忘れていましたが、書庫の整理に取り掛かっているときに当時のままの小包を発見しました。

差出人は植田常夫さん、コールサインは JA5NG、香川県大川郡白鳥町とあり、包みを開くと一通の手紙と黒い表紙のアルバムが出てきました。

このアルバムは 植田さんの親類の ex **J4EA**、**岡本良雄**（香川県引田町）さんが遺された一冊で、昭和 8 年（1933 年）J4EA を開局のシャックが冒頭に飾られており、当時交流していたオールドタイマーの活躍がモノクロ写真に鮮やかに焼き付けられていました。



アルバムには昭和になって再び開局し活躍された有名な OM たちの写真を見ることができて興味深いものがあります。

すでに故人になられた方も少なくありませんが、そうした方々を織り交ぜてアマチュア無線の草創期に活躍されたオールドタイマーの様子を遺された写真から追ってみたいと思います。

▼ 植田さんの手紙から抜粋

私の親類が大昔、昭和 10 年頃、J4CW、J4EA で出ていました。その頃の各局の写真を 108 枚いただいているのですが、私には見飽きて必要ありませんので、もし皆さんに見ていただけるようでしたら寄贈いたします。de JA5NG

写真のコールは **J4EA**、J4CB、**J3DZ**、J3CW、J3EK、J3EH、J2KJ、**J7CG**、J1EG、**J2HJ**、J2CD、J2HE、J2EA、J6CO、J4CT、J3EF、J3DO、J3DT、W6GPB、DE1178、**J4CG**、**J4CL**、**J3CX**、J4CM、J4EM、J3DP、J3EN、J1DO、**J2GX**、J6CP、**J2GW**、J2KQ、WA6GAL、**J3DE**、W6FZY、K6CGK、J2KJ、**J1FF**、**J2HZ**、J4CI、J2CC、J4CJ、J3FI、J2KP、MX2B、鳥取米子工業学校施設、**MX2A**、J4CO、J4CP、**J2IX**、J2LW、**K6CQV**、XU5KT、K6AKP、EA3DY、K6CRU、J7CG、J5CM、VK3ERS、その他。

* 色つきコールサインはご紹介済み

▼江戸重富氏（J3DZ、J2DO、JA9CX）のシャック



戦時下の JARL と盟員 JARL 盟員も相次ぐ徴用や応召で実働できる人員は減少する一方で、幹事になる人も無い有様であった。したがって、開戦を待たずにその組織は無いに等しい状態となったが、本部は実質的には香取光世氏（J2OV）宅（東京市城東区亀戸 3 丁目 244 番地）にあった。＝中略＝

なお、上述の 2 局とは別のケースとして調和 16 年 12 月の停止措置が行われたあとも、延伸願が認められたケースがあった。江戸重富氏（J3DZ、J2DO、JA9CX）は昭和 17 年 1 月 10 日および昭和 18 年 1 月 29 日付で出願し、その度に延伸許可がおりて、昭和 19 年 3 月 4 日まで延伸が認められたが、昭和 18 年 7 月 1 日付業放無第 785 号で名古屋逓信局長からの使用停止命令を受け、その後は延伸を断念した由で、これらの記録は現在も保管されている。

戦争の長期化と共に物資の窮乏はいよいよ深刻となった。一般からの金属類の回収が行われ、危険を無視して橋の欄干まで取り外される始末であった。このような状況下で、逓信当局は JARL 盟員に無線機器のの献納を呼びかけた。＝後略＝ （「アマチュ無線のあゆみ」 p.196 JARL から抜粋）

昭和 12 年（1937 年）はどんな時代だったか？

■ MARL（満州）結成さる

昭和 12 年（1937 年）12 月 10 日、満州国アマチュア無線連盟（MARL）が結成された。「JARL NEWS」第 71 号（昭和 13 年 7 月号）は次のように伝えている。

友邦満州国にも機運至って、この程 MARL（満州国短波アマチュア無線連盟）が結成され、近い中に多数の局が許可を得る筈である。今のところ時に応じて MARL 奉天支部報を発行し、MARL の内容が整ひ次第 NEWS を定期的に刊行すること。尚奉天支部事務所及 QSL 宛名は下記の如く決定した。

奉天支部：奉天市平安通り 20 番地 青島達丸氏方 QSL 宛先：奉天中央郵便局私書箱 23 号

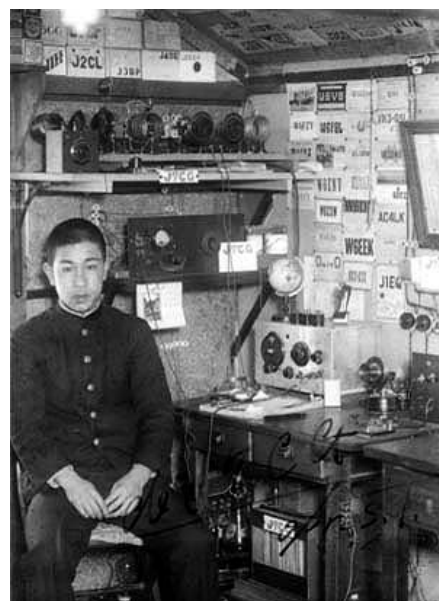
田母上栄氏（J7CG、JA1ATF）は当時の模様を「CQ」昭和 34 年 2 月号掲載の“私のりれき書”で次のように述べている。

MARL の結成

話は前後するが、昭和 12 年 12 月に満州の各局が寄集まり、満州国アマチュア無線連盟（MARL）を結成し、会長に小沢匡四郎（MX1A）、幹事に松井義正氏（MX3A）と小生（MX3H）があたる事になった。MARL の大きな仕事として、満州国は日本と異なり、あくまでも実験局でなくアマチュア局で行くための運動を行う事であった。幸いにも交通部（逓信省と同じ）当局に理解して頂いて、アマチュア局となり、運用時間も常時とし、電力も入力 1 kW 迄入れ得るようになった。そこで MX1 のコール・エリアを作らねばならなくなり、新京府の東半分をこれに当て、MX3 と大同大街を挟んで MX1 が生まれ、MX1A が 1 局出来たのである。＝後略＝



田母上栄氏（J7CG、JA1ATF）とシャック



■ 函館大火と非常通信

田母上栄氏（J7CG、J2PS、MX3H、JA1ATF）は「CQ」昭和 34 年 1 月号（CQ 出版社）の“私のりれき書”で次のように語っている。

局の運命をかけた非常通信

昭和 9 年（1934 年） まだ雪も解けやらぬ 3 月 21 日、折からの強風の中、漁家一軒から発した火により函館市の 90%が灰になった。函館の大火についてはご存知の方も多いことだと思う。

この時に運が悪く海底電線の中継所も火災を受け全焼し、そのため本州と北海道の連絡は落石無電局のみとなり、救助関係の重要連絡が途絶し、北海道庁始め関係方面の困り様は一方ならぬものであった。その結果北海道庁の実験局の準備委員の木村氏より、なんとか内務省と連絡をとって協力してくれないかと依頼があった。

小生は今日と違い非常通信も目的外通信として処罰される時代であったので、一寸ためらったが然し私のアマチュア無線はスタートの時から、善意に満ちた他人の好意により育て今日に到ったことを思い、又冬の寒空の罹災者の事を思い、意を決して引き受ける事にし、早速運用時間がであるのも承知で（当時は午前 3 回午後 3 回運用時間が決められていた）、J1AB（東京警視庁）と J1AD（埼玉県庁）を呼んだが応答なし、これはどうしても駄目かとあきらめにかかったら、突然 J1AB が呼んできた。

後でわかった事だが小生が余り夢中で時間外にもかかわらず前記 2 局を呼んでいるので、これを傍受した J1DR(銚立舜一氏) が有線で J1AB に連絡してくれたからであった。

小生が呼び出しを始めてから 2 時間以上してから、とにかく J1AB と連絡出来たので早速被害状況や急を要する救助物資の発送依頼等の電文を送ったが、J1AB から応答がない。これは駄目かと思って受信機のダイヤルを回すと、今度は J1AD が呼んで来て、J1AB 局は故障したので、J1AB は受信したので、J1AB は受信して内務省と有線で連絡し、返事及び J7CG 宛ての電文は J1AD が送ると言ってきたので胸を撫で降ろした処に、札幌逓信局の係員が来て送信を中止しろと運用停止命令書を示されたが、小生はなんとか有線が開通する迄見逃してくれと北海道庁の係員ともども頼んだ。



左から J4CL、J4CG、J3CX、J4EA

余り熱心に頼んだので、係官もやむなくそれではコールを言わないで、続行する事にして交渉成立し難を切り抜け、その後 3 日間非常通信を続けた。この非常通信中の両局に QRM する局があると J5CC 堀口文雄氏、J3CX 河野正一氏等が注意してくれたりして御協力くださった。＝後略＝

(以上、アマチュア無線のあゆみ JARL p.122～p.124 より抜粋)

■ MARL 結成・・・MX2A、MX2B

羅津に J8CL 大西千秋さん（陸軍司令部電信所長）がいた。大西さんは応召して広島電信隊にはいったのがきっかけとなり、満州で電信所長のとき、朝鮮茂山電信所長だった J8CC 田中勇さんにハムのコーチを受けた。早速 XU8CO のコールサインを使って QSO していたところ、逡信局に御用となった。

「軍隊で通信実験したい」

といって逃れ、正式に出願をすすめられた。ある参謀から「スパイと疑われるぞ」とおどされたが、「満州で小沢少佐が MX1A で出ている」と頼み込み許可をとった。



後列左より MX2B 永野多景志氏、MX2A 小沢匡四郎氏
前列左より J4EA 岡本氏の従兄弟、ひとりおいて右端が
K6CQV

ツェップアンテナで 14 メガサイクルに出ると、猛烈なパイルアップ、カードはすべてダイレクトで送った。そのころ活躍していた人に J3FJ 湯浅楠敬さん、J8CD 長滝良蔵医師がいた。

ツェップアンテナで 14 メガサイクルに出ると、猛烈なパイルアップ、カードはすべてダイレクトで送った。そのころ活躍していた人に J3FJ 湯浅楠敬さん、J8CD 長滝良蔵医師がいた。

満州にもアクティブなハムがいた。MX2B 永野多景志さんたちで、仕事から満州電電や満鉄の関係者が多かった。奉天で昭和 13 年、アマチュア無線の連合体として MARL（満州国短波無線連盟）が発足した。本部を 奉天市平安通り 20、奉天中央郵便局私書箱 23 号青島達丸さん方の置き、機関紙などを発行した。



MX2A のシャック

国内では防空演習への参加が続いた。昭和 11 年 10 月、愛知、岐阜両県下で行われた防空演習に J2CN 大田寛一さんら十人が防空無線隊として参加。同年北海道での陸軍特別大演習に J2MN 西丸政吉さんたち 8 人が愛国無線隊と名乗って協力した。隊長が J2MJ 小沢少佐、隊員が西丸さんのほか J7CG 田母上さん、J7CR 嵯峨昊さん、J3FK 塚本照郎さん、J4CN 大津武義さん、J5CC 堀口さん、それに受信局の内藤勇二さんであった。

ハムの参加した背景に「非常時」という危機感が働いたことも見逃せない。昭和 12 年 9 月、東部防衛司令部の行った防空演習に 51 人という多数のハムが、国防無線通信隊として参加している。次いで 12 年 11 月の第三師団管区防空演習に、東海市部員十人が愛国防空無線隊の名称で参加し、さらに 14 年 10 月と 15 年 10 月の関東防空演習にも国防無線隊で名を連ねた。



MX2B のシャック



MX2B 永野多景志氏

軍部の息のかかった通信では、制限時間外に公然と実験ができるという魅力があった。このメリットが純真なハムの心をひきつけたのも事実であろう。 たまりかねた逓信省は昭和 13 年 12 月、私設無線電信電話規則を改正し「実験のための通信のほか、逓信大臣の指定（防空など）した通信が行うことができる」とした。JARL NEWS の昭和 14 年 2 月号は、この問題を次のように受け止めている。

《逓信大臣の指定があったとしても、自分はアマチュアラジオを非常用に活用できると言い切れる人が何人いるでしょうか。和文コードの熟達はいうまでもなく、電報送受の大体のことを飲み込んでおく必要があります》（要約）

（以上「ハム半世紀」香山晃 電波実験社 p.80～81 より抜粋）



MX2B のシャック（昭和 10 年 2 月 5 日撮影）
写真の裏面に 852 RS228 852 211-DX3 865×2 112A の記載がある



この写真を撮るためにヒゲをのばしたという MX2B 永野氏

[参考文献]

「アマチュア無線のあゆみ（日本アマチュア無線連盟 50 年史）」

「アマチュア無線のあゆみⅢ」JARL

「ハム半世紀」香山晃著 電波実験社

de JA1FUY